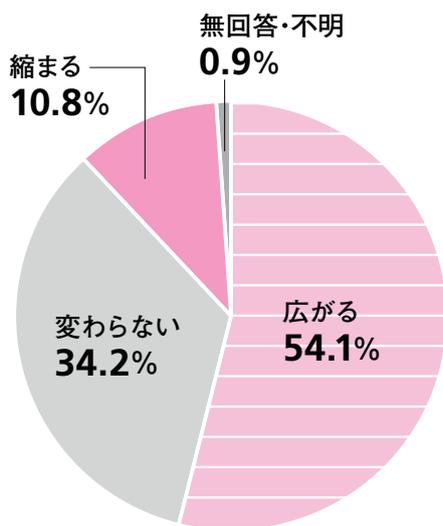


読者アンケートから見る 学力差に応じた指導の現状

『VIEW21』読者モニターへのアンケート結果を紹介する。
学力下位層の基礎学力の定着率を上げるため、全国の中学校では、どのような手立てを、どの程度講じているのだろうか。

1 5割の教師が学力格差拡大と予想

Q. 学力の格差はとなると予測しますか



先生の声

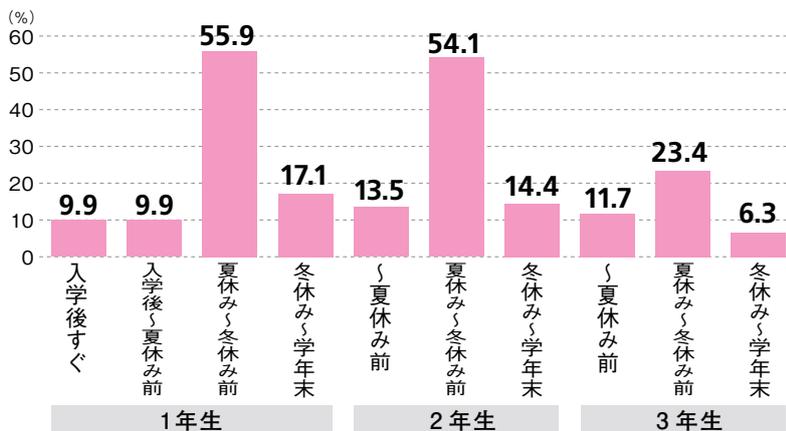
- ・学力上位層のレベルは上がると思う。学力下位層の一番の問題は、意欲の向上だと思う
- ・特に授業時数の増える英・数・理の差がつくのではないかな。できない生徒はよりしんどくなるのでは

半数以上の教師が、学力格差は今後拡大すると予想した。授業内容の増加により、「学力下位層の生徒が授業についていくのがより困難になるのではないかと危惧する声が目立った。

*「全面実施となる2年後は、子どもたちの学力についてどのような変化があると思われますか」の設問に、学力格差は「広がる」「変わらない」「縮まる」から1つ選択

2 下位層が増えるのは各学年の2学期

Q. 学力下位層が増えるのはどの時期ですか



*「どの学年・時期に学力下位層が増えますか? (当てはまるものすべてに○)」という問いに対する回答

いずれの学年でも、夏休みから冬休み前までの間に学力下位層が増加するとの回答が多い。特に1、2年生については5割を超える回答があった。授業に集中させるため、行事の実施時期を見直すなどの対応をする学校もあるようだ。

読者アンケート概要

『VIEW21』中学版の読者モニター(中学校教師)にアンケート用紙を郵送にて送付。回答はファクスおよびインターネットにて回収。

図1、2/実施時期:2010年2~3月、有効回答数:111

図3~8/実施時期:2010年1~2月、有効回答数:58

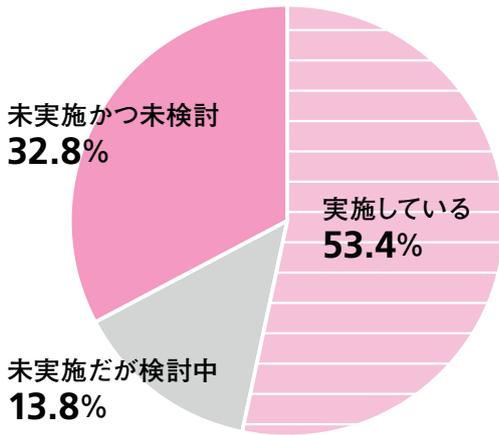
学力下位層を伸ばす3か年のストーリー

3

習熟度に応じた少人数指導は5割が実施

Q. 習熟度に応じた少人数指導を実施していますか

取 り 組 み 例



*「習熟度に応じた少人数指導」について「実施している」「未実施(検討中)」「未実施(未検討)」から1つ選択

- ・数学科を中心に習熟度別に学級を二分している
- ・英語と数学では、生徒の希望や能力によってクラスを2つに分けてきめ細かな指導を実施
- ・3年生の国数理英、2年生の数、1年生の数英で少人数授業。1クラス2分割を基本として、場面ごとに習熟度を取り入れている
- ・学期末の数時間と学年末後10時間前後で実施(加配教員のいる英数理で実施)

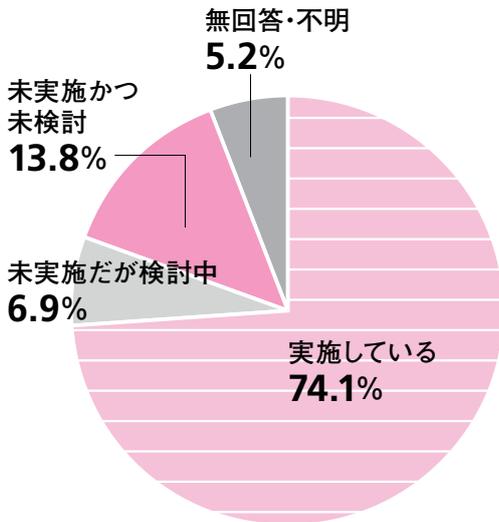
「習熟度に応じた少人数指導を実施」との回答が5割を超えた。しかし一方で、「未実施かつ未検討」との回答も3割ある。先生の声からは「生徒間に学力差が少なくなり、刺激が少なく意欲が育たない」「出張や休暇があると成立しない」「学級のまとまりが育たない」「自分自身を低く見て、発展的なクラスで学ぶ力があるのに希望しない生徒がいる」といった課題も見られた。

4

約7割が放課後に補充的な学習サポートを実施

Q. 放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していますか

取 り 組 み 例



*「放課後を利用した補充的な学習サポート」について「実施している」「未実施(検討中)」「未実施(未検討)」から1つ選択

- ・定期考査で1教科でも40点未満があれば、次の定期考査の1週間前は、放課後に質問時間をとる「フォローアッププラス」で指導。また、帰りの学活に行く小テストで、不十分な生徒は居残り学習を行っている
- ・退職教員(地域に在住)に週1回来校していただいて、補充的な学習を実施
- ・期末テスト前の部活動停止期間に学習相談を実施
- ・曜日を決めて週または月2、3回実施

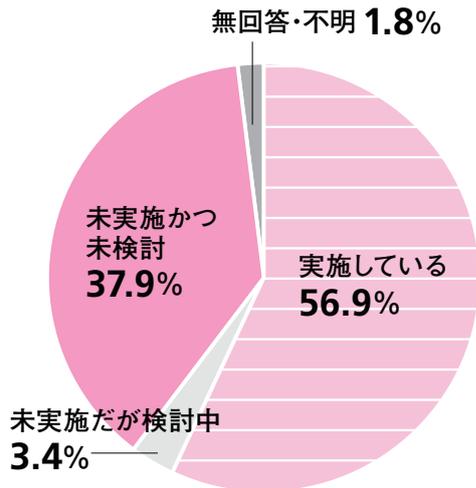
放課後を利用した学習サポートの実施率は7割強だった。指名制、希望制の違いはあるが、多くの学校が何らかの取り組みを行っている。ただし、時間を確保しているものの「生活習慣すらきちんと身に付いていない生徒への指導の限界」「部活動で時間がとれない」などの課題のほか、「学力下位層の参加が少ない」などの回答も見られた。

5

約5割の学校が帯時間に反復学習

Q. 帯時間を使った基礎的な漢字の書き取りや英単語、計算ドリル等の練習を実施していますか

取り組み例



- ・朝の10分間を使って読書と交互に実施
- ・5教科のドリルを朝学活の前に10分間実施
- ・英語のモジュール学習を毎朝実施
- ・毎日の帰りの会の前に、国数英の週替わりで10分間のドリル学習を行う。月火水は「練習」、木は「テスト」、金は「再テスト」
- ・始業前に10分間「朝学プリント」を毎日行っている（全員同時に行う）

帯時間を活用した反復学習の実施率は、5割以上だった。「朝の10分を静かに過ごすことによって1時間目の授業にスムーズに入れる」と評価する声が目立った。一方で、「職員朝会に全員がそろわない」「毎回のプリント作成に時間がかかる」といった教師の負担増に関する不安や、「評価が大変である」「やらせっぱなしになっている」との声も寄せられた。

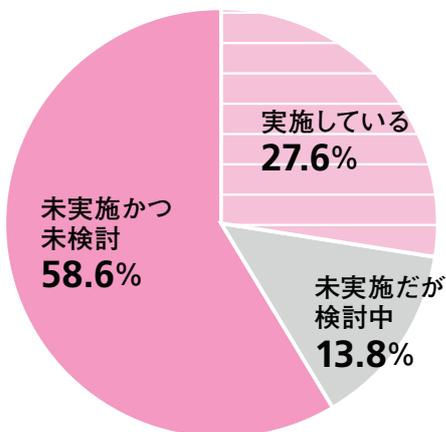
*「帯時間を使った基礎的な漢字の書き取りや英単語、計算ドリル等の練習」について「実施している」「未実施(検討中)」「未実施(未検討)」から1つ選択

6

保護者や地域の人々の活用は少数

Q. 保護者・地域ボランティア等による授業サポートを実施していますか

取り組み例



- ・地域支援本部事業により、ボランティアを募集して、大学生（教員志望者）による授業支援を実施している
- ・地域の学校職員OB 10人にボランティアとして不定期に来てもらっている。理科、家庭科の実習補助や体育実技の個別学習の指導に当たる
- ・理科実験の時に地域ボランティアがチームティーチングとして指導に入る

保護者らが授業支援をしている学校は、3割弱だった。理科の指導や放課後の補習などでの外部人材の活用が目立つ。ただし「実験の時だけのボランティアなので、人間関係が築けていない」など、教師との連携の難しさを指摘する声や、「募集したいが応募者がいない」などの声も寄せられた。

また、「外部の人が出入りすると、個人情報の管理などが難しい」といった運営上の課題も指摘されている。

*「保護者・地域ボランティア等による授業サポート」について「実施している」「未実施(検討中)」「未実施(未検討)」から1つ選択

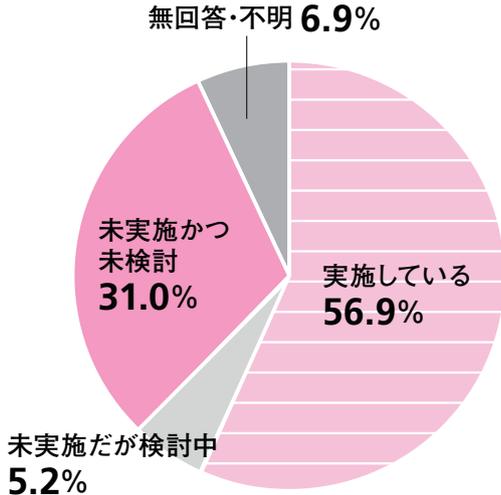
学力下位層を伸ばす3か年のストーリー

7

5割の学校が生徒同士の「学び合い」を実施

Q. ペア学習やグループ学習等、子ども同士が学び合える活動の充実に取り組んでいますか

取 り 組 み 例



*「ペア学習やグループ学習等、子ども同士が学び合える活動の充実に」について「実施している」「未実施(検討中)」「未実施(未検討)」から1つ選択

- ・全校班学習のシステム化により、各教科でも班学習を日常化している。教え合い学習を推進
- ・研修テーマの一つとして、教科の特性に応じたグループ学習の研究に取り組んでいる
- ・子ども同士のかかわりを学区研究の柱にして、授業の中での教え合いを大切にしている
- ・定期考査直前に部活動単位でテスト勉強を実施している部が二つある。今後はすべての部で実施予定

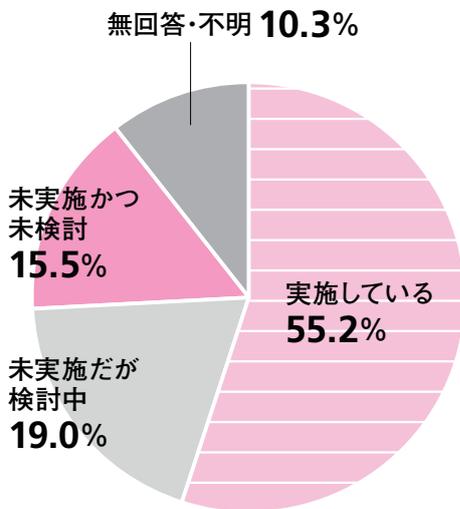
生徒同士の「学び合い」については、約5割が同様の取り組みを行っていると回答した。「生徒の活動の時間が十分確保できない先生がいる」「人事異動が多く、学び合いについての一定以上の指導力を持つ先生が少ない」など、教師の指導力に関する課題や、「生徒同士の信頼関係を築く必要がある」といった生徒指導面での課題を指摘する声があった。

8

学力下位層を意識した校内研修・授業研究は約5割の学校が実施

Q. 学力下位層を対象にした校内研修・授業研究を実施していますか

取 り 組 み 例



*「学力下位層の生徒の理解を助けるような授業方法を、校内研修・授業研究で検討すること」について「実施している」「未実施(検討中)」「未実施(未検討)」から1つ選択

- ・個々の生徒の学習状況を全教員で把握する「生徒指導連絡会」を実施
- ・「自ら学習意欲を引き出す指導の実践」をテーマに、全教師が年1回の公開授業を行い、指導法を研究
- ・全教科とも毎時に「学習のめあて」を提出して意識化。空き教員がチームティーチング、トリプルチームティーチング
- ・教師相互が授業を参観する「研究授業ウィーク」を年5回実施し、授業の検証を行っている

約半数が学力下位層を意識した校内研修を実施していると回答し、中には「校区の小学校と連携し、指導改善に取り組んでいる」などの回答も寄せられた。検討中の学校も約2割ある。

ただし、校内研修を実施しても「事後検討会の設定がとれなくて難しい」「その時だけの対策になっていて、日常的に広げていくことが不十分」といった指摘もあった。